

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 4 4 回相模原市社会福祉審議会児童福祉専門分科会				
事務局 (担当課)		健康福祉局こども育成部こども青少年課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 9 8 1 1 (直通)				
開催日時		平成 2 7 年 1 0 月 9 日 (金) 午後 6 時から 8 時まで				
開催場所		けやき会館 2 階 大研修室				
出席者	委員	1 0 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	1 3 人 (こども育成部長、他 1 2 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 こども育成部長あいさつ 3 議 題 (1) 次世代育成支援行動計画 (後期計画) の実施状況について (2) 民間保育所等の設置認可について 4 そ の 他 5 閉 会				

主な内容は次のとおり。【 は委員の発言、 は事務局の発言】

1 開 会

2 こども育成部長あいさつ

3 議題

(1) 次世代育成支援行動計画（後期計画）の実施状況について

資料に基づき、事務局から説明を行った。

全体の中で、この5年間に市が考えた目標がどの程度達成されたのか、どのあたりが足りなかったという認識を持っているのか。

保育・学童に関しては、今年になって保育所の待機児童がゼロになったが、大きな課題として残っているのは、児童クラブの待機児童である。また、虐待に関しては、年々通告件数が増えている中で、しっかりと対応するための人員配置などに取り組んでおり、貧困対策や青少年の健全育成については、計画に沿って着実にやっている。

個別のことではなく、総括は行わないのか。

特段考えていないが、達成できなかったことなどを反省しながら、今後も「次世代育成支援行動計画」の後継的な計画として策定した「子ども・子育て支援事業計画」に基づき、しっかりと取り組んでいきたいと考えている。

計画の全体的なところで、相模原の子育て、子どもに関する問題は、このようなところに力点を置いているということを確認にしたほうが、市民にも分かりやすいのではないかと。

目標値が低いのではないかと。目標値はどのように設定しているのか。

目標値は、それぞれの数値に対して根拠をもって設定している。高い目標を掲げるということは、それだけ、予算の確保や人を配置することが伴うので、いろいろなバランスの中で設定をしている。全体的に達成されて、目標が甘いのではないかと印象をもたれているかもしれないが、なかには達成できないものもあり、問題を分析しながら、反省材料にさせていただいている。

今回の意見を最終的な総括なり、実施状況のまとめの中に、考慮または反映していただければと思う。

(2) 民間保育所等の設置認可について

担当課より、資料に基づき、民間保育所、民間保育所の認可化移行分、幼保連携型認定こども園、小規模保育事業所及び事業所内保育事業の認可について、説明し、質疑の後、了承された。

民間保育所の設置認可

・(仮称)レイモンド西橋本保育園

設置経営主体は和歌山県の法人だが、相模原市に何らかの関わり合いがあったのか。

市内では、橋本駅前レイモンド橋本保育園を運営している。

指導監査等の経緯から、先行しているレイモンド橋本保育園の事故報告や保育実施状況についての問題点、課題点、改善点はあったのか。

法人の監査で、欠席の役員等が多いとの指摘があったが、すでに改善がされている。施設の監査では指摘等は過去3年ない。

法人監査はどこが実施したのか。

国である。

そうすると、国で実施した資料が法人を通して提出されたということか。

公募の際に、指摘事項や改善内容等について提出をいただいている。

・(仮称)小町通みたけ保育園

理事長兼施設長というのは、あまりよろしくないということが、国からも言われているが、これについて市としてはどう考えているのか。

施設長との兼務について、現状では制限等は加えていない。

この法人は、高齢者サービス事業も展開しているが、保育方針や保育内容に関わる部分で、その事業との具体的な連携はあるのか。

お子さんが高齢者施設を訪問するなど、そのようなことからのスタートだと思う。

・(仮称)ココファン・ナーサリー東林間

この法人は他都市でも運営しているが、先行している保育実践現場の情報はとっているのか。

現場を見ることなどは実施していない。

義務付けられているわけではないが、例えば市域を超えて同様の問題がでていたことが事前に分かれば、そのあたりを留意した上で、対応ができると思う。

そのような考え方については、対応できればしていきたいと思う。

職員はどのような基準で配置されるのか。

職員の配置については、それぞれ年齢ごとに配置の基準があり、保育所は0歳児がお子さん3人に対して1人の保育士を配置することとなっており、1、2歳児については6対1、3歳児については20対1、それ以上については30対1になっており、お子さんの数に応じた配置をみたくような形での運営をしていただくことになっている。どうしても0歳児と1歳児が多いと、職員が多くなっている傾向にある。

常勤比率については、今後考えていく予定はあるのか。

現状、取り決めはないが、ただ、年齢ごとに常勤の先生がいないと、なかなか親御さんとのコミュニケーションが難しくなってくることもあるので、それについては協議の中

で、対応できる人が担当をもてるような配置を指導しているが、強制をするのは難しい。量の拡大と質的な問題をどこかで考えていくということが求められていると思う。

保育士の数は足りているのか。保育所が増えてきた場合に、質の問題を含めて保育士は本当に充足されているのか。

待機児童対策全般を通していうと、量的な整備と保育の質の問題、保育士の確保というこの3つをバランスよく行っていかなければいけない。市としても保育士の確保については、様々な手を尽くし、一生懸命行っているところである。

本市においては、一応充足されているのか。

確保については皆さんに努力をしていただいている。近年本市でも無関係ではないが、実情では、定員を落とさなければいけないまでの調整はない。

定員は落とすまでのということは、本来ならこれだけ居なければいけないが、ひとり、ふたり欠員になっているという園はあり得るということか。

必要な保育士の数というのは、確認をさせていただいている。

それぞれの法人努力に頼らず、行政として本市だけではなく、県下のそれぞれの政令市、県も含めて、保育士の確保に向けた協働した取組をしているのはたくさん見ている。

本市では、神奈川県保育士保育者支援センターの取組に加えて、本年7月から市の就職支援センターに、保育士資格を持っている保育士就職支援コーディネーターを1名配置して、新卒者の説明会にも、市の保育園の園長会や保育連絡協議会と協働して取組をさせていただいている。また、今後、潜在保育士のセミナーなどの取組も一生懸命するつもりでいるが、行政だけで行っても難しいので、保育園の園長会や保育連絡協議会などと連携をとりながら行っていくことになると思う。

民間保育所の認可化移行分

それぞれ、本市の認定保育室として運営されていたが、保育内容や保育実践内容について、何か問題はあったか。

認可への移行支援を行っているということで、特に問題はない。引き続き、移行への支援については、巡回支援等できちんと対応していきたいと思っている。

・(仮称)どんぐり保育園

この地域において、延長保育が20時までとなっているが、利用者がいるということなのか。

利用者もいるため、認定保育室の時の時間帯を引継ぎ、20時までとなっている。

・(仮称)ぼっかぼっかナーサリーインターナショナル園

インターナショナル園とつけているのは、何か意味があるのか。

保育内容のところにもあるが、なるべく英語を身近に感じられるようなところを保育に取り入れていきたいという気持ちがあって、名前に現れていると思う。

既存園の相模原園では、同様の保育内容で実際に実践しているのか。

近いような形で保育を行っている。

ここの延長保育は、通常保育が7時30分からなので、7時から希望する人は延長保育にあたるのか。

こちらの通常開所時間については、7時30分からを予定しており、7時から18時にすると現状利用されている方が、かなり延長保育を利用することになるので、7時30分から18時30分とした。

他のところは、職員配置予定欄の「その他」に記載があるが、この施設は空欄なのか。通常、調理員等を直営で行う場合には記載があるが、ここは調理を外部委託するため、空欄となっている。

幼保連携型認定こども園の設置認可

・(仮称)認定こども園相模女子大学幼稚部

幼稚園の定員は何人だったのか。

定員は350人である。

幼保連携型になって300人に減ったということか。

実数に合わせて保育の部分を受け入れて、教育の部分を若干減らしている。

・(仮称)認定こども園相模林間幼稚園

3号認定の子どもが0人であっても認可上は問題ないということか。

問題はない。

平成28年11月1日からの3号認定の子どもを入れることを前提としなくても、構わないということか。

構わない。

幼稚園としての定員はどれくらいだったのか。

301名である。幼稚園型認定こども園を行っていて、2号認定の子どもの定員は10人である。

1号認定の子ども達が多い比率は変えないのか。

この定員で運営したいということである。

小規模保育事業所の認可

・(仮称)小田急ムック保育園

小規模保育事業だからということではなく、認可園でも企業型は経営が譲渡されるということがあがるが、行政の指導である程度、歯止めをかけることはないのか。

形態によって、設置主体の変更になるか、新たな認可になるかというのは、実態を見ながら判断していくことになると思っている。簡単に事業譲渡自体で、その都度代表が変わるということではない。

事業所内保育事業の認可

・(仮称)わけん保育園相模原駅前

この法人が持っている事業所で働いている方は、事業所内保育の対象者になると考えていいのか。

そうである。

地域枠との枠組みは、きちっと守っていくものなのか。

運用は認められている。ただし、地域枠については原則、0歳から2歳までとなっているので、3歳以降については事業所の枠になる。

地域枠は0歳から2歳までということだが、3歳になったらどうなるのか。

基本は、地域の認可保育所等に転園をしていただく。

転園をするためには、小規模保育事業所と同じように連携園があるのか。

今、確実な連携園というのはないが、近隣の保育所との連携や周辺の保育ニーズなどを勘案した中で、いろいろな方法を考えていきたいと思っている。原則としては、地域枠なので、3歳になったら違う保育所に行っていただくことになる。

3歳になったらどこにいけばいいのか、保護者は不安である。

3歳になって近くの私立保育園などに希望があれば、連携園に移行することや転園をするという中で、選考で優遇をするなどして、0歳から5歳をしっかり見ていきたいと思っている。

市も積極的に連携園の確保には取り組んでおり、今後も取り組んでいこうと思っている。この3園については、市の補助金がなく施設ができていたので、事業所内保育の多様な保育を選択していく中で、大事な保育の場所ではないかと考えている。

年齢が3歳になったあとの一貫した子どもの支え、子育て支援に繋がるように、周辺への協力など、行政も配慮をいただければと思う。

併せて開園してから、定員や保育士の数等についても、目配りしていただきたい。

そこはしっかり巡回支援などで確認をし、保育の方の支援、現場の方の支援をしていきたい。

4 その他

527人の児童が保留になっている状況では、このように多くの保育所等の認可をし、待機児童を解消していくという方向はいいと思うが、相模原市の出生数は毎年100人前後が減ってきている中で、待機児童はすぐに吸収されてしまうのではないかと思う。これだけ認可して本当に合っているのかと気になっている。

就学前児童数については、本市の場合、年間で500人くらい減ってきているが、保育所の利用申込者数では、昨年895人増えている。相模大野駅周辺や橋本駅周辺など、交通のアクセスがいいところから少し離れたところに働きに行くような方が増えていると思っている。全体としては、子ども・子育て支援事業計画も含めた中で、しばらくの間は増えていくと思っている。小規模保育事業所や分園など、定員を超えて受け入れていた

だいているところもあるので、そのようなところは、利用者が減ってきた時に正しい定員としていただき、その上で、例えば小規模保育事業所は他の園との吸収など、整理ができると思っている。また、国でも、新しい福祉ビジョンということで、多機能の施設というものも打ち出されてきており、保育所と高齢の施設を併設する施設なども今後でてくると思っているの、いろいろなことを考えながら、保育の量と保育の質を高めていくため、積極的に努めていきたいと思っている。

まだニーズは増えていくかもしれないということか。

そうである。実際のお子さんの数に対して、保育所を申し込んでいる率が増えてきている。しばらくは、年間 800 人から 900 人ぐらい申し込みが増えていくと思っている。

これだけ増やしても過剰にはなり過ぎないという予想なのか。

そうである。

園医は引き受けるのは、現状でも手一杯であり、決めるのには大変な思いをしている。これだけ保育所等が増えてくる中で、園医を決めることができるか心配である。もし、園医が足りないという場合には、保育所に園医がいなくても問題はなしとして扱うのか。大変ご苦勞をお願いするようになると思うが、決められた健診数があるので、園医については、お願いをしたいので、引き続き調整をさせていただければと思う。

子どもに対する施策を充実させることによって、相模原市で子育てがしたいという層を増やしていくことを含めて、保育所の充実を量だけでなく質的な転換に向けてお願いしたいと思う。

- ・ 次回の分科会については、3月までにもう1回開催を予定しているが、日程は未定であるため、詳細が決まり次第、通知をさせていただくこととした。

5 閉 会

児童福祉専門分科会 委員名簿

(平成27年10月9日)

番号	氏名	役職・推薦団体	備考	出欠席
1	はら ひろこ 原 裕子	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
2	とつか ひであき 戸塚 英明	相模原市社会福祉協議会		出席
3	うちだ のりこ 内田 紀子	相模原市私立保育園園長会		出席
4	いわもと つとむ 岩本 勉	相模原市幼稚園協会		欠席
5	ひらの ひろこ 平野 裕子	相模原市母子寡婦福祉協議会		欠席
6	おおみぞ しげる 大溝 茂	桜美林大学教授	専門分科会長	出席
7	ふくだ すみこ 福田 須美子	相模女子大学名誉教授	職務代理	出席
8	さくらい なつこ 櫻井 奈津子	和泉短期大学教授		出席
9	あいざわ ゆみ 相澤 由美	相模原人権擁護委員協議会		出席
10	しながわ よういち 品川 洋一	相模原市医師会		出席
11	いまい かつあき 今井 勝明	相模原市立小学校長会		出席
12	なかにし ふみお 中西 文夫	相模原市立中学校長会		出席